

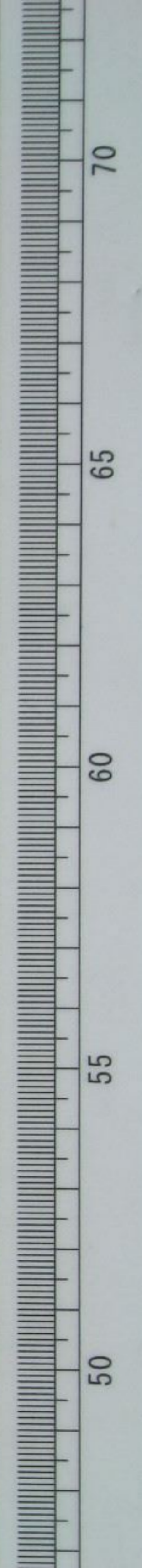
補
遺

訓蒙圖彙大成

四

~~P
279
4~~

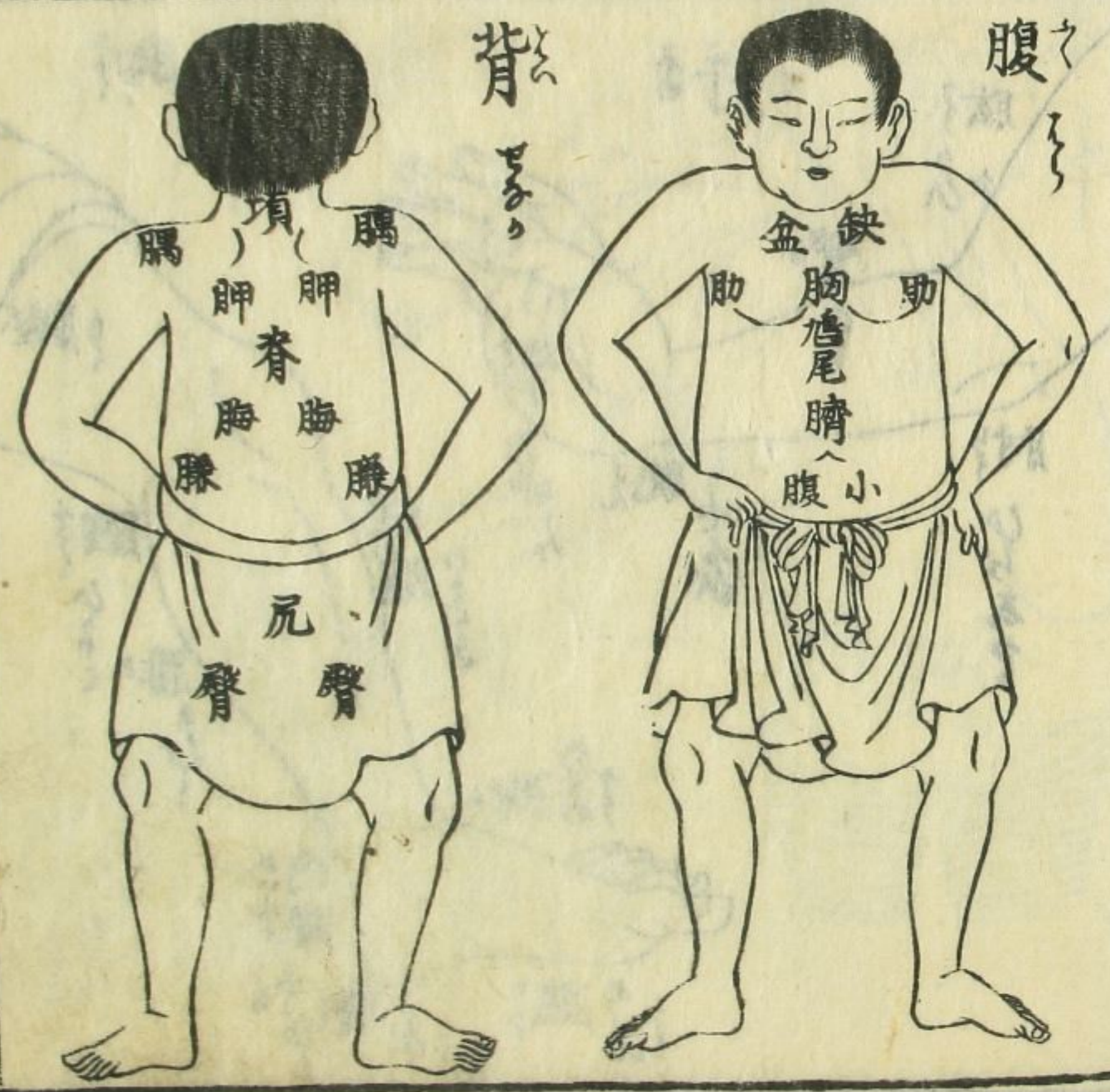
逍遙文庫
文庫 6
27
4



輪廓のその垂珠のその
 たる耳門のそののその
 骨のそののそののその
 をその耳のそののその
 みその
 ○鼻の肺のそのその
 かるその顔のそのその鼻の
 同準のそのの鼻の
 くらその涙のそのの血の
 くらその
 ○眉のそのそのその
 くらその
 ○齒の骨のそのその
 くらその
 齒の齒の斷齒の齒
 ○舌の釋名にそのその

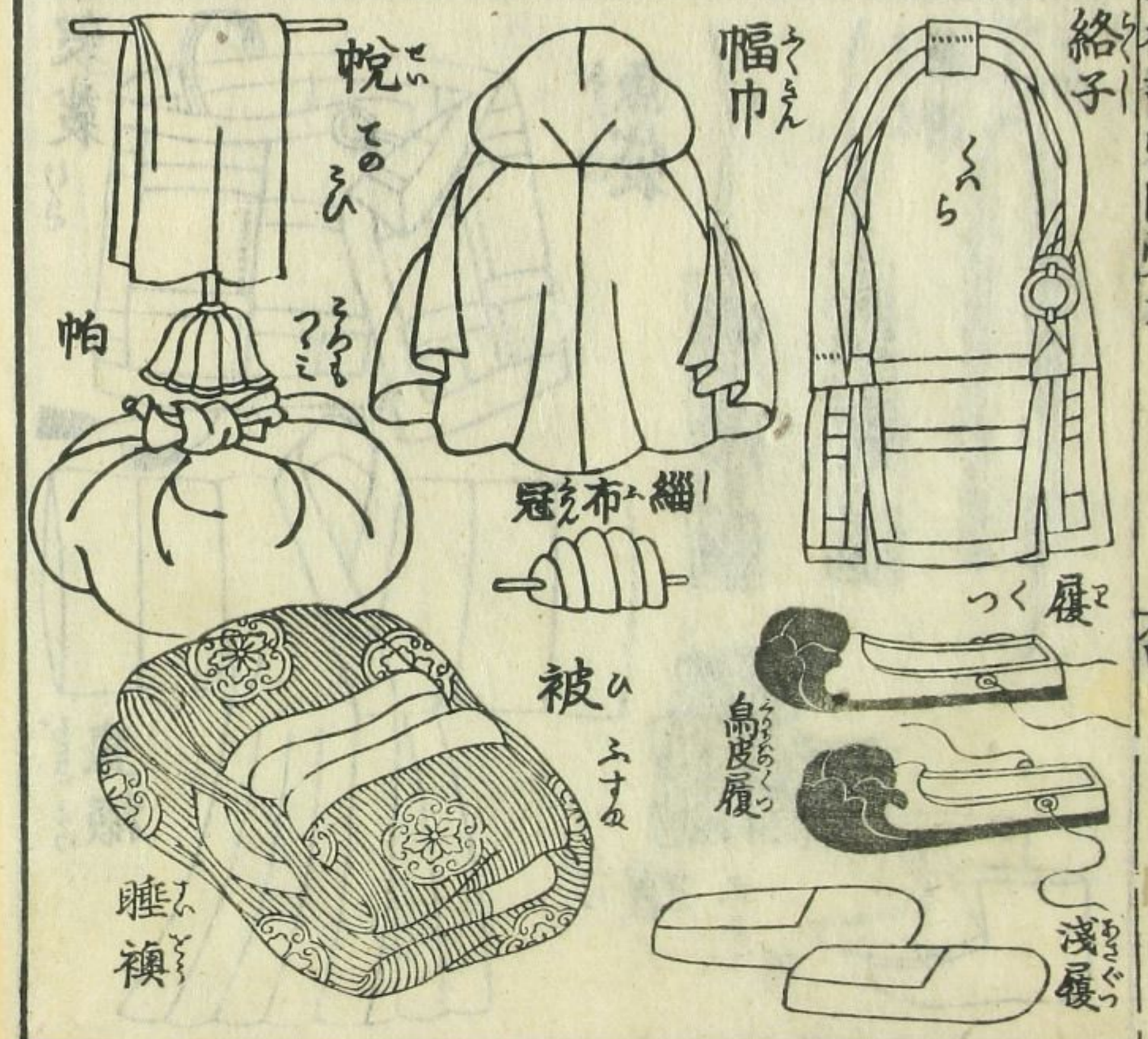


食物と卷制して落す
 くらその涎のその唾のその
 き心の臟のそのその
 ○髪は頭髪あり胎髪
 くらその髪はのそのその
 髪衆のその
 ○髪類の釋名ふ秀あり
 物成て秀人成て髪類生
 と髪はのそのひげ
 ○髭字彙に髭は口上
 の毛と髭といふ下はの
 と髭類といふ類ふのその
 とつその
 ○鬚の額旁に髭也鬚鬚
 同鬚のその蟬鬚のその
 ○髭の終脈なり肝の臟



頂書曾補川家圖彙五

○幅巾の白死きぬあつ
 り糸深衣とて縮布冠
 若くあき紙のつゝ冠上
 どのひかり度合の裳と
 ○縮布冠の縮きぬのつ
 けらあり
 ○院のひのひかり院巾
 とつひのひのひのひのひ
 架のひ
 ○帕の紅柄あつ額と抹
 どのひのひのひのひのひ
 肥衣包袂並同
 ○履の草と履のひの麻と
 履のひの皮と履のひの
 ちも本にてつろ
 ○被の寝衣かり作の夜
 着のひのひのひのひのひ
 又袂襖



○毛裘の鹿の狐の皮あつ
 けら衣服かり寒氣と
 よくふて異柄あつて人
 を用これとさる
 ○深衣の儒者の衣とさる
 衣服かり白死布のつ
 らる常も白く土糸の糸
 とりつゝ常のひのひのひ
 圓ひ又黒又よまひのひ
 ○延衣の小児のよまひ
 ひのひの延衣同
 ○裏脚のひのひのひの脚
 絆かり裏脚の裏脚と
 よまひ又腰巾行纏行
 膝あつひのひのひのひ
 ○帷の上下四方のひのひ
 けら帷のひのひのひのひ
 らを帷のひのひのひのひ



靴衣あり
 ○浴衣のゆきびりかろふ又明
 なもあまなり又ゆてのふひ
 と浴巾とゆふ
 ○蔽膝ひきとちやとまうと
 まんたとちや同
 ○鞋の糸鞋麻鞋のり草鞋
 の履とも履とも書べし
 ○履の本履なり俗にわ
 だしのふんかとも履系とも
 又鼻繩といふ又揮といふ
 あり帯中にもく物あり
 ○囊履のりと囊といふ履
 かもと書系といふりあり
 ろあり袋履
 ○道服の道者の衣服あり
 胸服といふあり俗に書と
 えありといふ



頭書增補訓蒙圖彙卷之七

寶貨

此部小の金銀珠玉銅鉄石甲錦
 鏤綾羅とて一さいの寶とわつひ

○金の紫磨黄金沙金
 どわり日本にていひり
 奥カレよりゆきり鍍金あり
 きりあり
 ○銀の白銀のり南鏡銀
 鏤あり俗に書とちやと
 又銀飯といふありのりあり
 ○鉛の青金あり鍍金あり
 カキと俗に書とちやと
 白鏤同鉛とて丹ありあり
 ○鐵の黒金あり鉄同鍍鐵
 ありありの鏤同銅鐵と
 かに鏤といふあり日本に

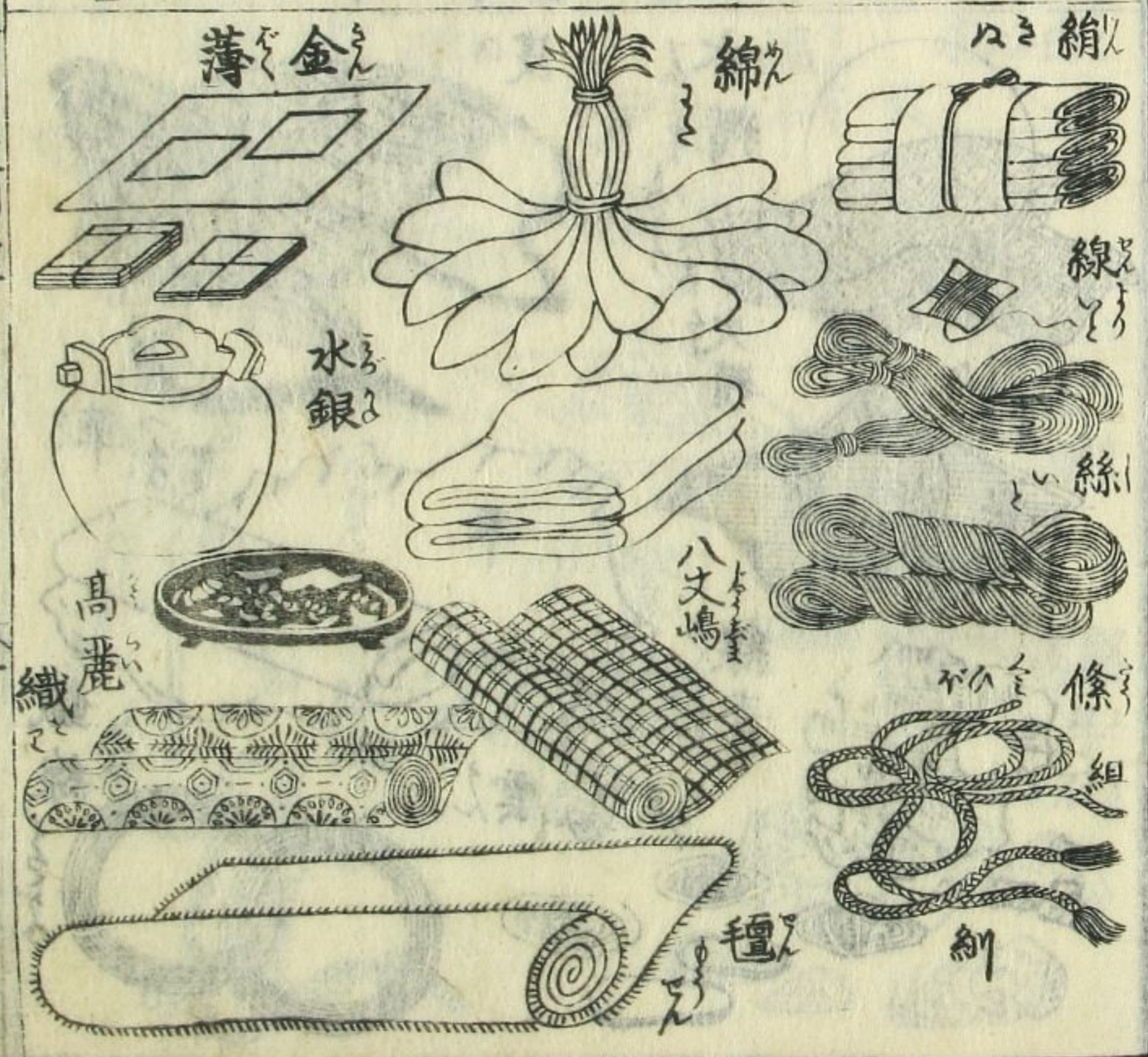


○物なり唐崑崙山より
 ○鑿石名方和名た
 ○珠名海より出たまは
 ○玉名山より出りて
 ○石名山より出りて
 ○銀名山より出りて
 ○銅名山より出りて
 ○鉛名山より出りて
 ○錫名山より出りて
 ○鐵名山より出りて
 ○錳名山より出りて
 ○硫名山より出りて
 ○硝名山より出りて
 ○硃名山より出りて
 ○礬名山より出りて
 ○磁名山より出りて
 ○石名山より出りて
 ○土名山より出りて
 ○木名山より出りて
 ○草名山より出りて
 ○蟲名山より出りて
 ○魚名山より出りて
 ○鳥名山より出りて
 ○獸名山より出りて
 ○人山より出りて

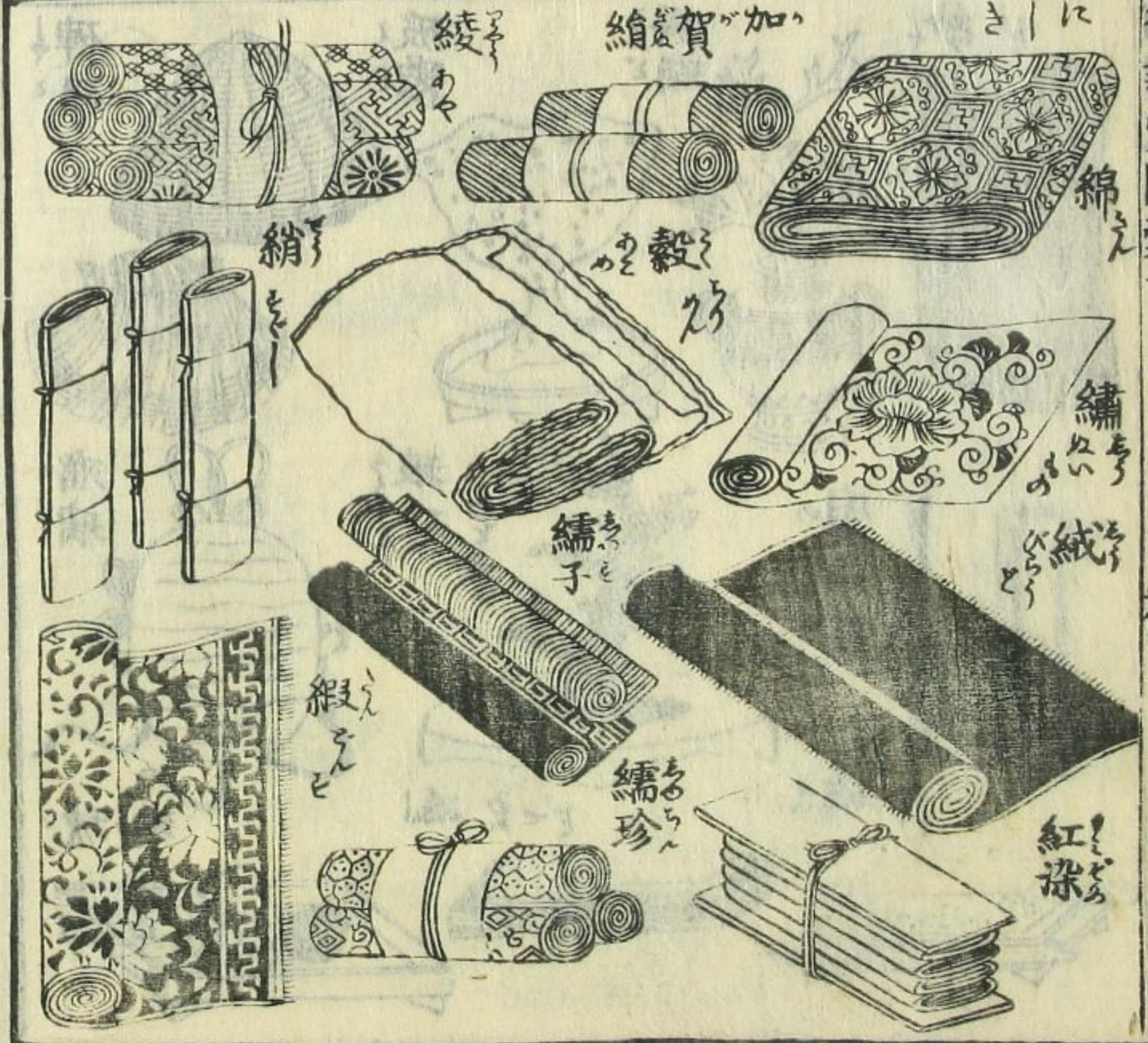
○物なり唐崑崙山より
 ○鑿石名方和名た
 ○珠名海より出たまは
 ○玉名山より出りて
 ○石名山より出りて
 ○銀名山より出りて
 ○銅名山より出りて
 ○鉛名山より出りて
 ○錫名山より出りて
 ○鐵名山より出りて
 ○錳名山より出りて
 ○硫名山より出りて
 ○硝名山より出りて
 ○硃名山より出りて
 ○礬名山より出りて
 ○磁名山より出りて
 ○石名山より出りて
 ○土名山より出りて
 ○木名山より出りて
 ○草名山より出りて
 ○蟲名山より出りて
 ○魚名山より出りて
 ○鳥名山より出りて
 ○獸名山より出りて
 ○人山より出りて



○硝礬の玉の名七寶の二つは石の玉ふゆる方より名海府和名つるるの
 ○瑠璃の玉の名甲に之あり合かたふつらの
 ○瑠璃の玉の名石のひよりありのあり七寶の四あり
 ○琥珀の松脂地よちちてみ事にして琥珀のちる結
 ○玻璃の玉の名七寶の二つは西國の玉あり頗る赤と
 ○琅玕の玉のひよりありのあり崑崙の玉復瑠璃の玉の玉の玉



○硝礬の玉の名七寶の二つは石の玉ふゆる方より名海府和名つるるの
 ○瑠璃の玉の名甲に之あり合かたふつらの
 ○瑠璃の玉の名石のひよりありのあり七寶の四あり
 ○琥珀の松脂地よちちてみ事にして琥珀のちる結
 ○玻璃の玉の名七寶の二つは西國の玉あり頗る赤と
 ○琅玕の玉のひよりありのあり崑崙の玉復瑠璃の玉の玉の玉



百一十

百一十

○珊瑚の海中の珠ありつら
 かり鐵細ともくもて
 七寶の一つあり
 ○磁の細磁石あり研も書へ
 一黄磁のありせどあり
 ○礪の鹿虱石ありわらう
 礪も書へ
 ○紗の金紗銀紗紋紗等
 わらうとりのあり又法螺漏
 かのりふふ屋子とりのあり
 ○尉の本同の筋あり織物
 税の侍のさる服なき
 又後者なきもさるあり
 ○錦の五色の糸と織て錦
 と俗ふの金襴の糸と
 ○繡の五条の刺文あり
 ぬいもの
 ○絨の細毛布ありその色

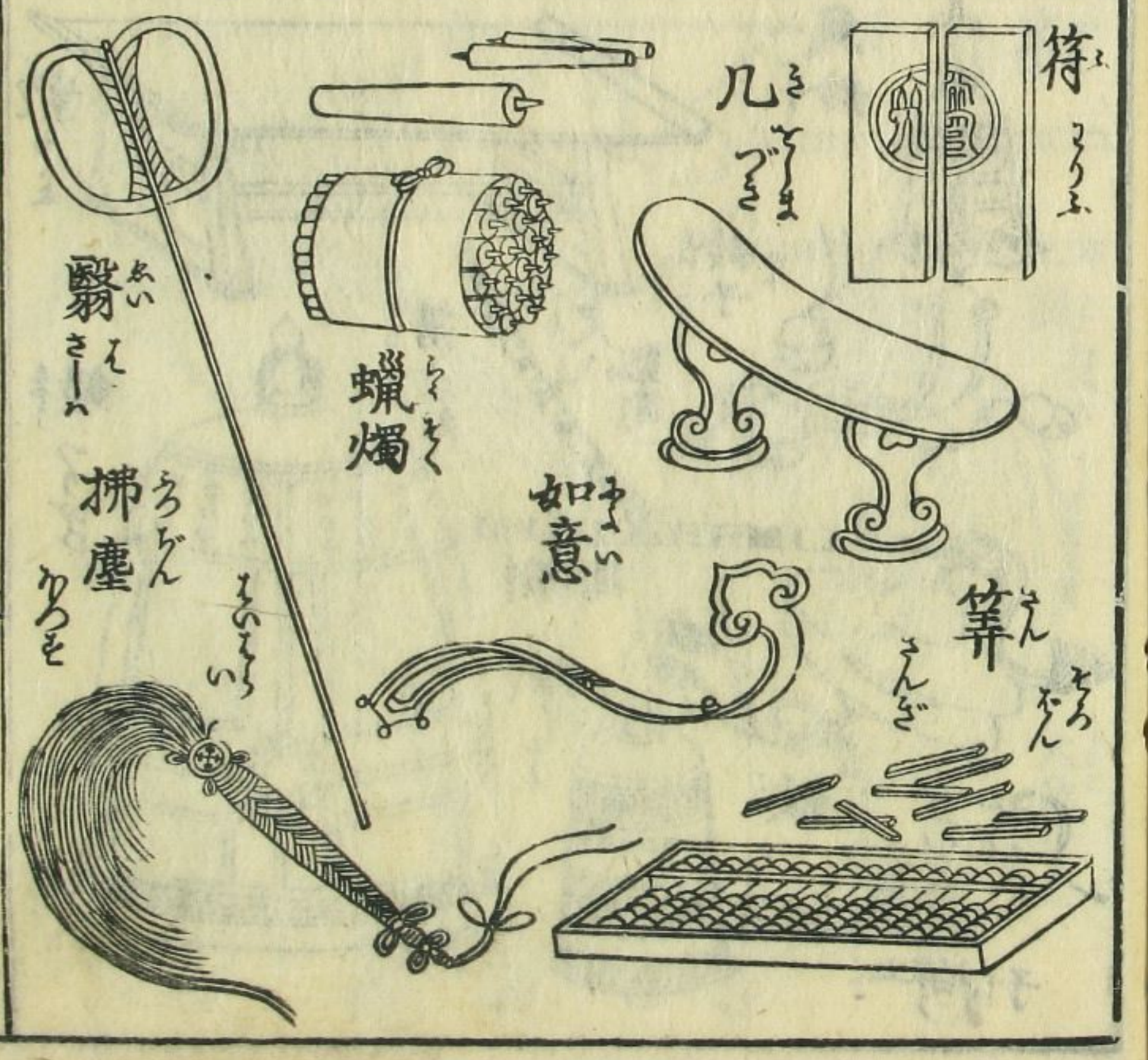
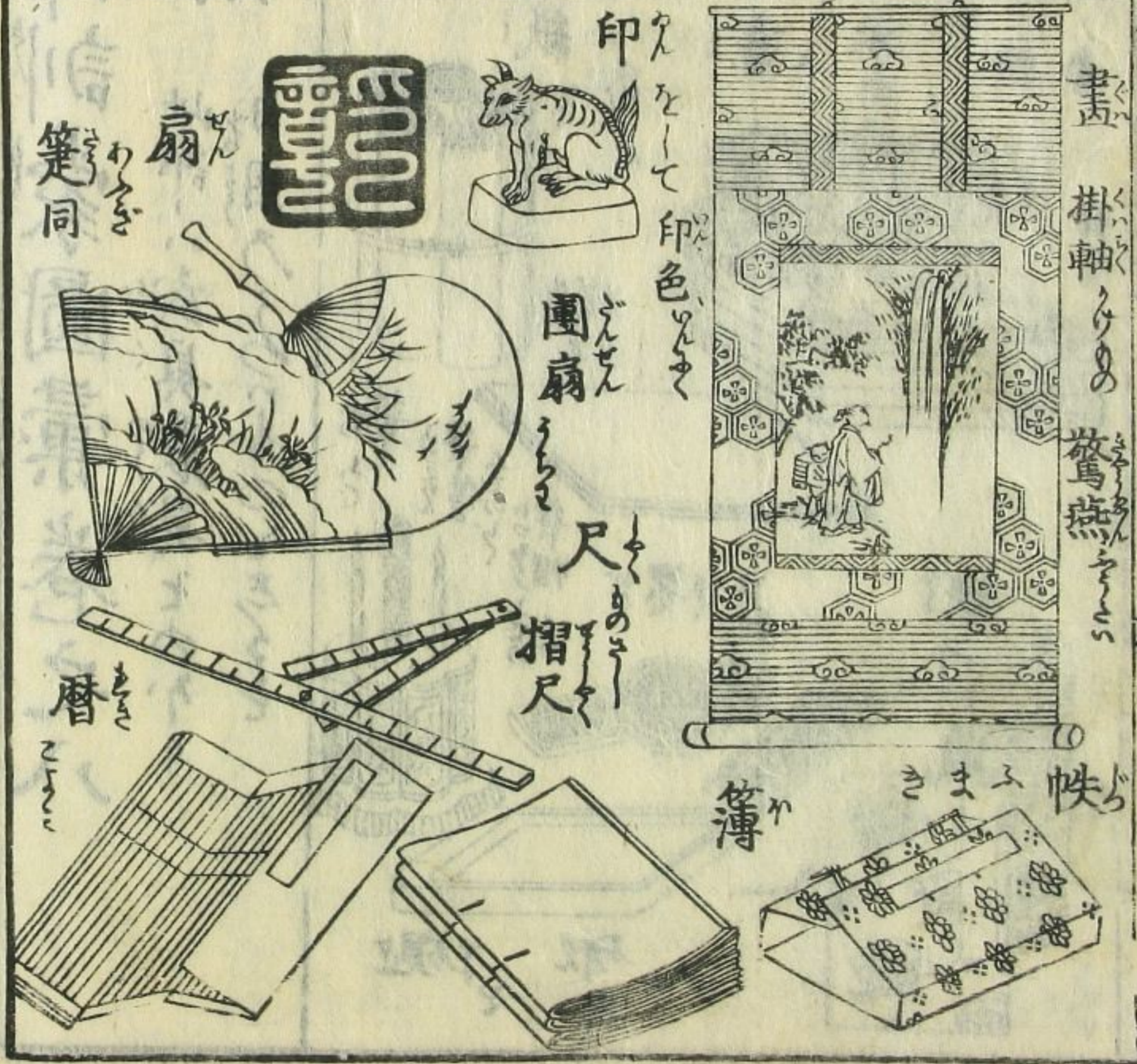


○物瓜天我佛のり人得
 子種種兜羅綿みまを
 布なり
 ○紅染の紅あり紅梅餅
 桃色中紅茜をわらう
 けわらあり
 ○加賀絹の加賀小ねより
 まのこと縮あり
 ○穀の綿紗あり今より
 めんわり俗に縮縮とく
 ○縹子の五色の縹もあり
 ○縹珍の五色あり縹狐
 めんく縮あり
 ○綾のあやなり又綾子
 花綾の紋綾子あり光
 綾のぬめ綾子なり
 ○絹の熟絹の移りぬ
 書へ

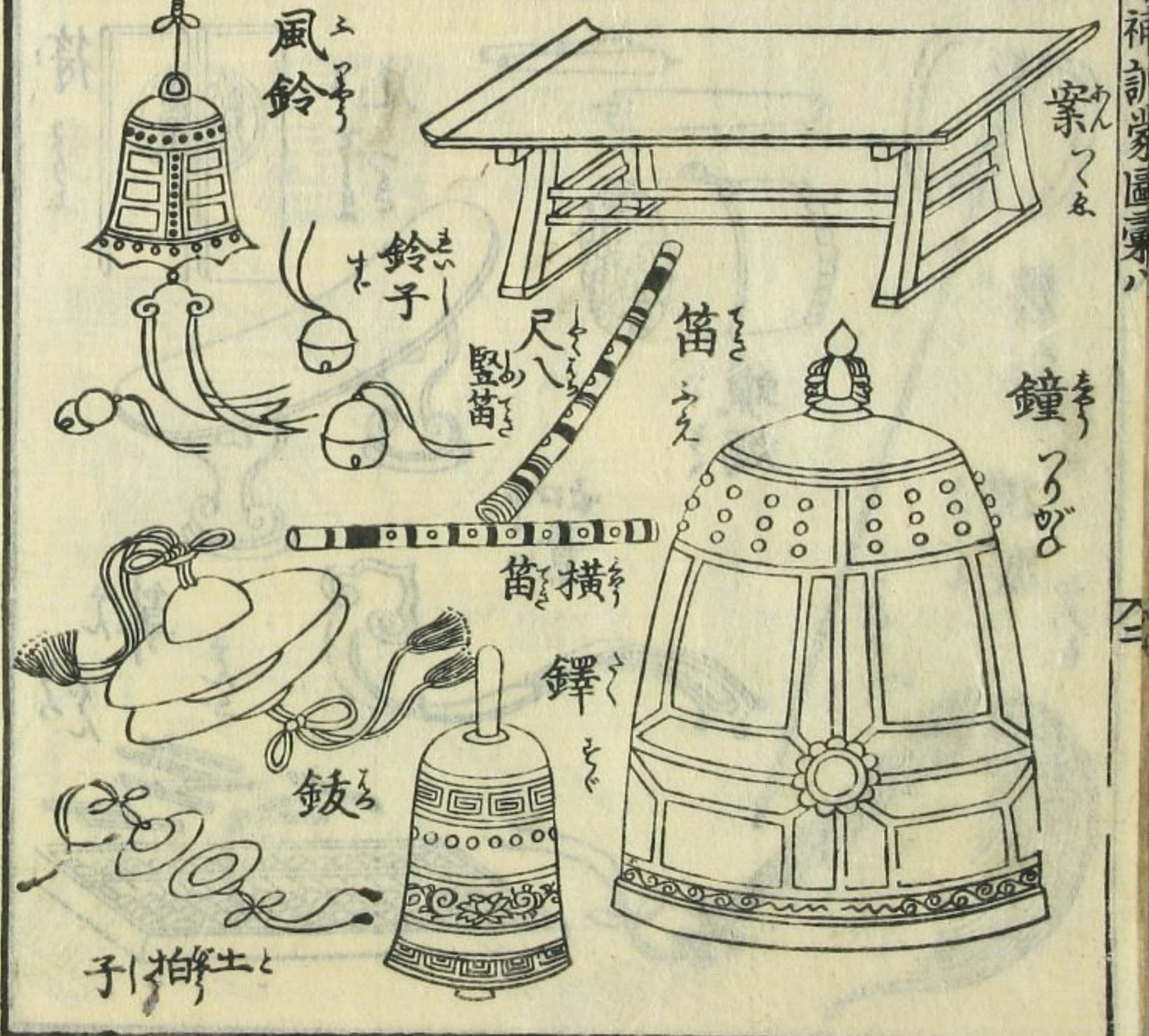


ていめてはらりあふとて
 ○墨の煤膠合してつる
 油煙松煙あり子路とて
 人つらういひしとて
 ○書いひし竹をわし小
 かめて彫付てこれと書と
 とよつて巻とも冊とも云
 ○裱の裱紙なり書のうら
 紙より標同々外題之
 ○畫の繪あり采とて狐
 繪といふ唐のての舞璣日
 本にて雪舟今の持野家
 其外名人あり
 ○帙の書のうら包なり表
 同ト又巻文匣あり又
 書とてて帙とも云

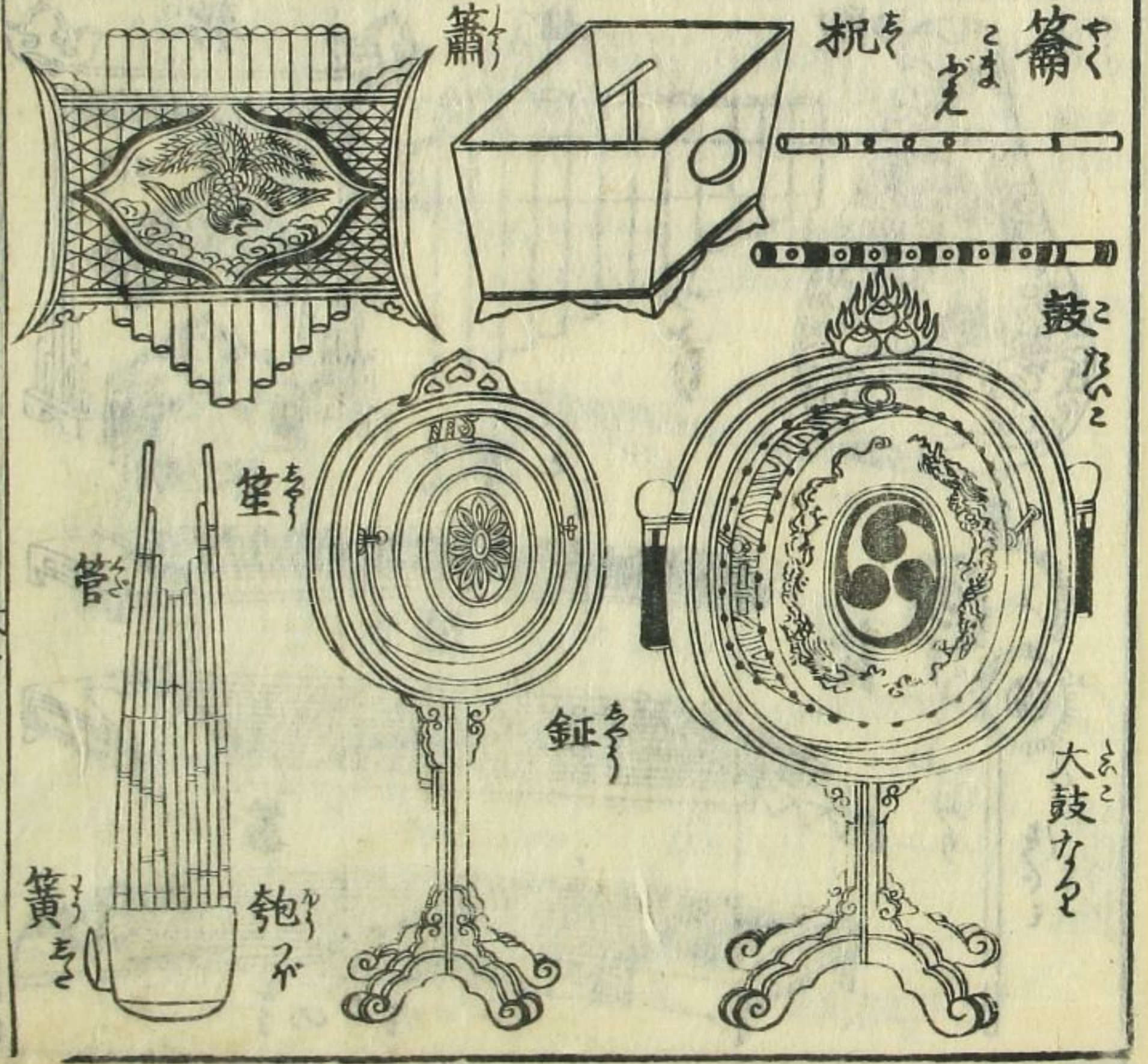
○聖の王者の印なり玉
 とりてはる庶人の金石
 みてつら
 ○扇の舞つらありたて
 衣王はつらありともつら日
 本にの神功皇后三韓
 征伐のとらに蝙蝠の羽
 尺くはつらありとも
 ○尺の粟うり生と十粟
 と分と十分とすとも十
 寸と尺とも人の躰を
 めんとする指分布て尺
 を和股とのて尋とてか
 尋ハ八尺あり
 ○簿の手板かを事と虫
 ちんともものを簿書簿



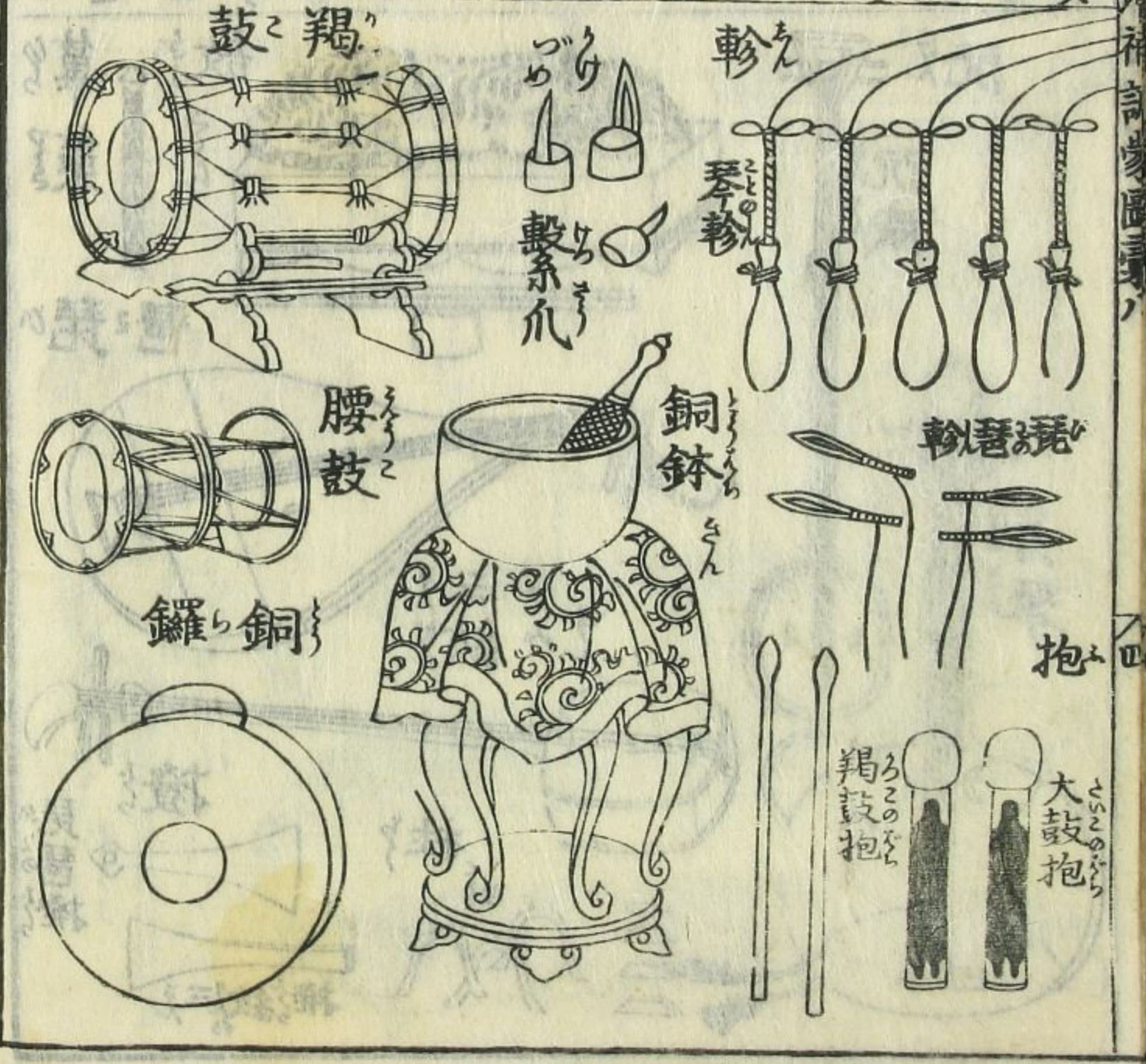
竹籍と云今の帳なり
 ○曆の黄帝つくりありとも
 和はるともなり
 ○符の符契符信といふ
 ありふり竹をさすに
 て分てお命く信とて本
 にてもつたり
 ○凡の今つくりありとも
 服息かり憑几なり又礼
 法なり
 ○算の長さ三寸曆教
 りりともなり黄帝
 の顔首算教といふ
 算のわたり算に
 蠟燭の蠟に油といて杯



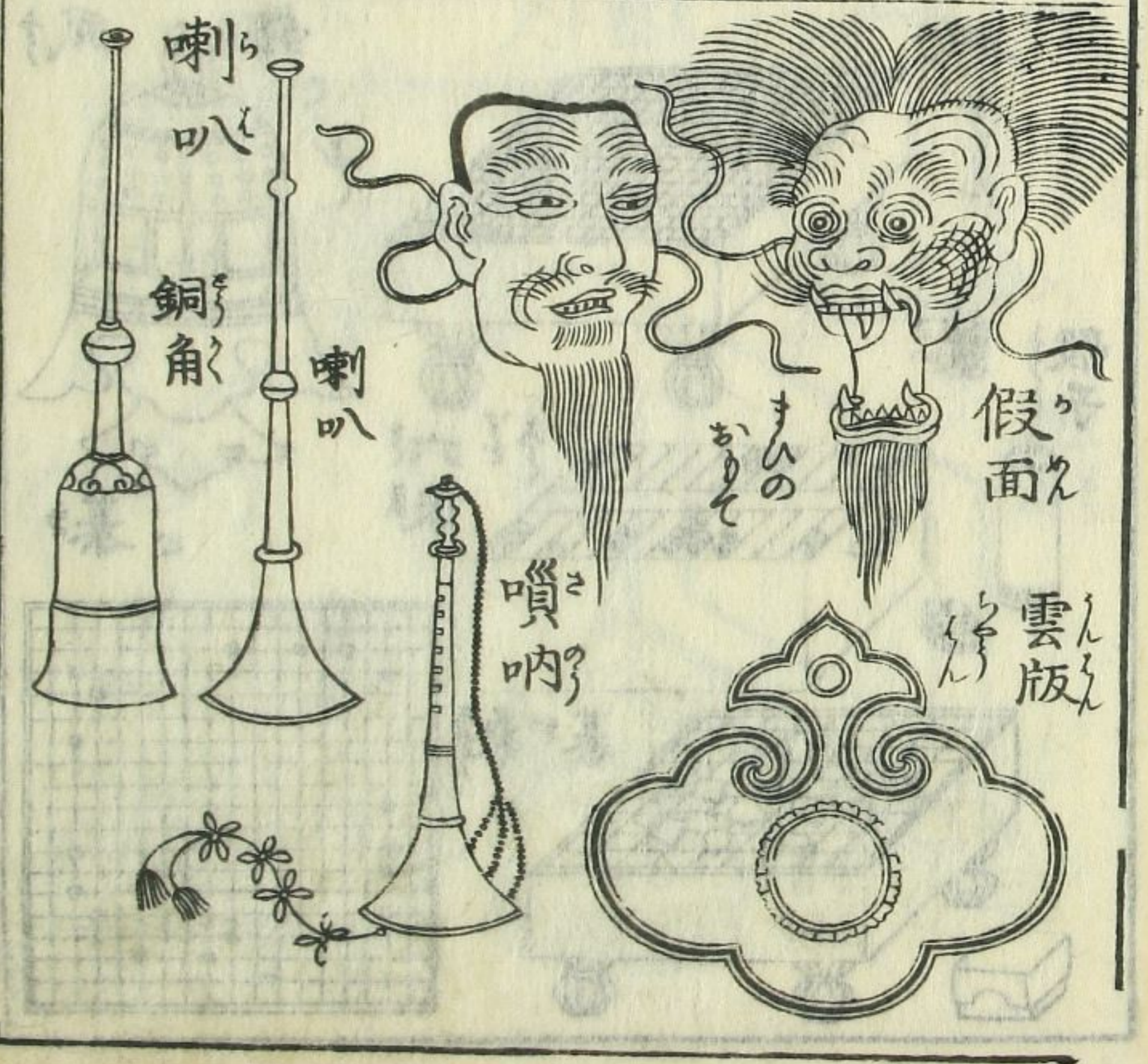
竹の筒に火の燭なり
 根蠟燭なり
 ○如意の本竹又象牙玳瑁
 物なり
 ○醫の天子のち
 物なり
 ○拂塵の
 物なり
 ○案の
 又卓
 ○鐘の十二調子の
 黄鐘の調子



磬のり磬といふもの之を磬
 簾といふ
 ○律の樂器あり陽律六陰
 律六合て十二律あり六律
 六呂といふ黃帝れ信也
 ○琴のひびく五十絃あり
 後ふ二十五絃とある今十
 三絃あり日本にて天の
 香弓とあり人絃といひく
 かゝるる
 ○瑟の絃數多あり大瑟
 五十絃あり小瑟と他
 といふ小樂器あり大ありと
 瑟といふ小あり人琴といふ
 ○箏の秦の蒙恬つくり出
 せり長一尺絃十三絃柱の



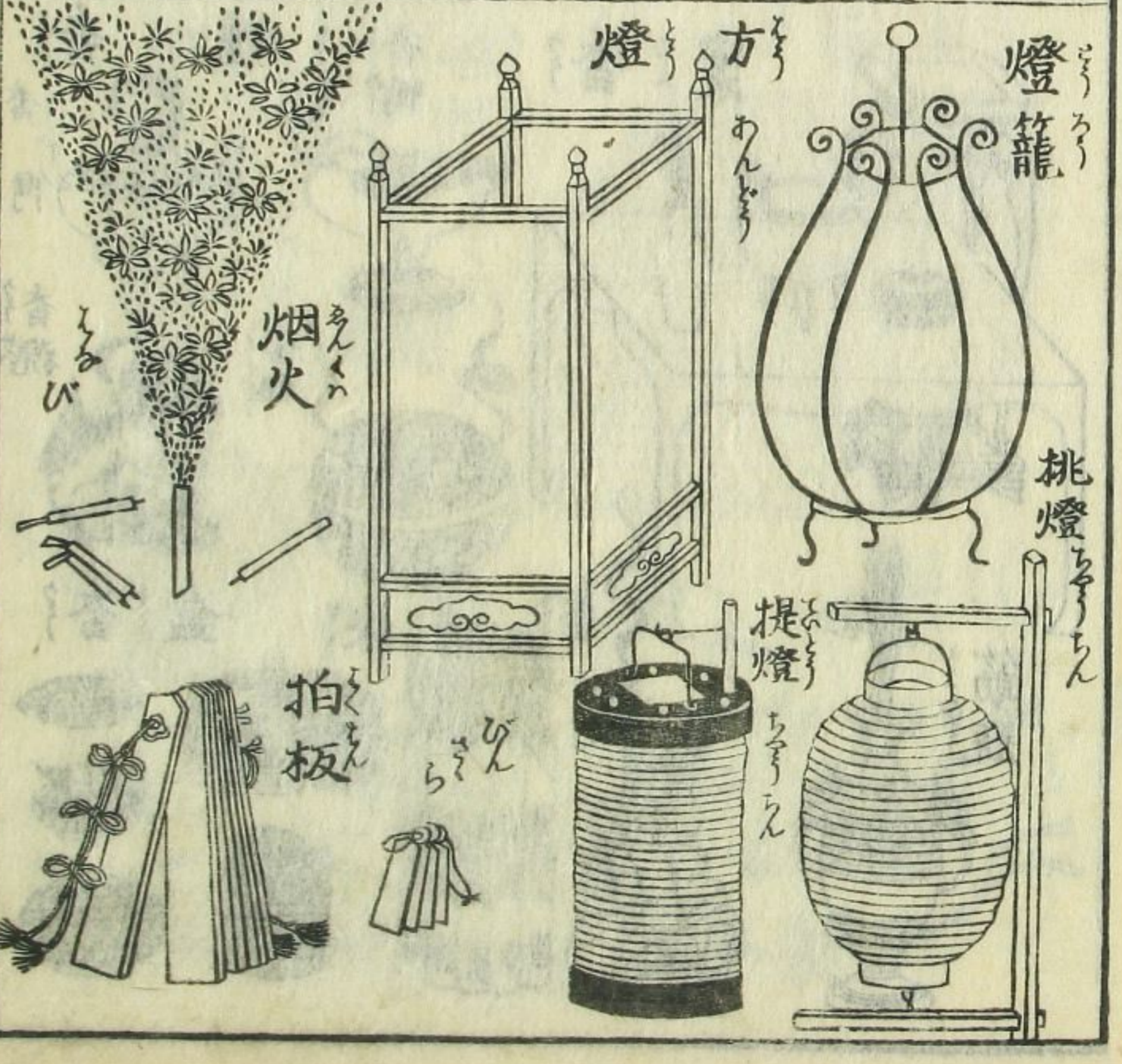
ちと三寸十三三の三絃と
 斗爲中といふ
 ○埙の土とやいてこれとつ
 る六の孔ありてこゝろ吹く
 樂器なり
 ○北鼓の鞞と同一樂器也
 一名と搖鼓といふよりつこ
 ○箏の箏二名箏管と云
 樂器あり胡人ふいて馬
 かゝるる
 ○敵の木虎ありせありふ
 くひちがひときぎと本と吹
 てこゝろ吹く樂とやひ
 破てもはくあり
 ○琵琶の長三尺五寸四絃也



○假面かめん今いまつゝ舞まひの面おもてなり
 代面しろめんも戯面あそびめんもつゝ能のうの
 樂がくに著あそぶなり
 ○雲版うんぱんいちちりちりなり飯齊いんさい
 の時大衆たいしゆとわつひらとさう
 川がはののかり
 ○噴呐ふんぱくの太平たいへい簫しょうとつゝえ
 かり噴哪ふんなん鎖唸さのんかゝひ同
 ○喇叭らふ。銅角どうかくも小唐人せうたうじん
 ふまふり又唐音たういんにてちちる
 めんといふ
 ○風鐸ふうたつの寶鐸ほうたつなりつゝ擔たん
 鐸たつもつゝ堂だうの擔たんふわり
 ○碁ごの帝てい堯ぎやうつゝり始はじめひて
 子の丹朱たんしゆふりつゝあふり
 黒白くろはくの石いし晝夜しゆくやふりつゝり



三百さんひゃく六十ごじゅうろくの日の數かずと表あらわす
 カを碁ごのいゝと碁ごの子こといふ
 碁ご笥ごを碁ご蓋がいといふ
 ○枰へいの碁盤ごばんなり又碁局ごきよく
 もつゝ碁盤ごばんの目めと路ぢと
 碁石ごいしを子こといふ碁笥ごごは
 壺かといふ
 ○六糸むつしの碁ごあり黒白くろはくの石いし
 の晝夜しゆくやなり十二じふにの目め十二月
 カを盤ばん局きよくといふ
 ○簾せきの日月にちげつの二ふたの小表せうひょうと四
 角かくの四方しやうほうににつゝ碁子ごしと
 筒つつなり投子とうし同
 ○碁ご碁ごの周しゆう直ぢく作さくして成なす
 碁ごのいゝなり大だい中ちゆう小せうの碁ご碁ご
 又摩訶まか陀た碁ごといふなり



○鞠の虫丸が頭とてのこりて蹴り飛を并とのこの家から地下に九道と云

○硯屏の硯のじくまゝの屏風より硯の墨と風

にふをまゝたふ又塵

ふをたふ

○書鎮の風ふくこと書

おさふり文鎮とも歴書

ともいふ

○歴尺の卦筭の具足

の草摺と卦筭といふ

ちにいふこと卦筭といふ

○水滴の硯の硯のふれ

かを玉蟾蜍ともいふ蟾蜍

のこらにうつる水のせ

又硯滴ともいふ

○瓜杖の搔杖ともいふ麻

姑ともいふ仙女のものを瓜

のおとよつて麻姑の

○筆架の筆もこせり

筆格筆峯筆山ともいふ

○界方の今も楯定木

から

○眼鏡のわがのかり

ともいふ

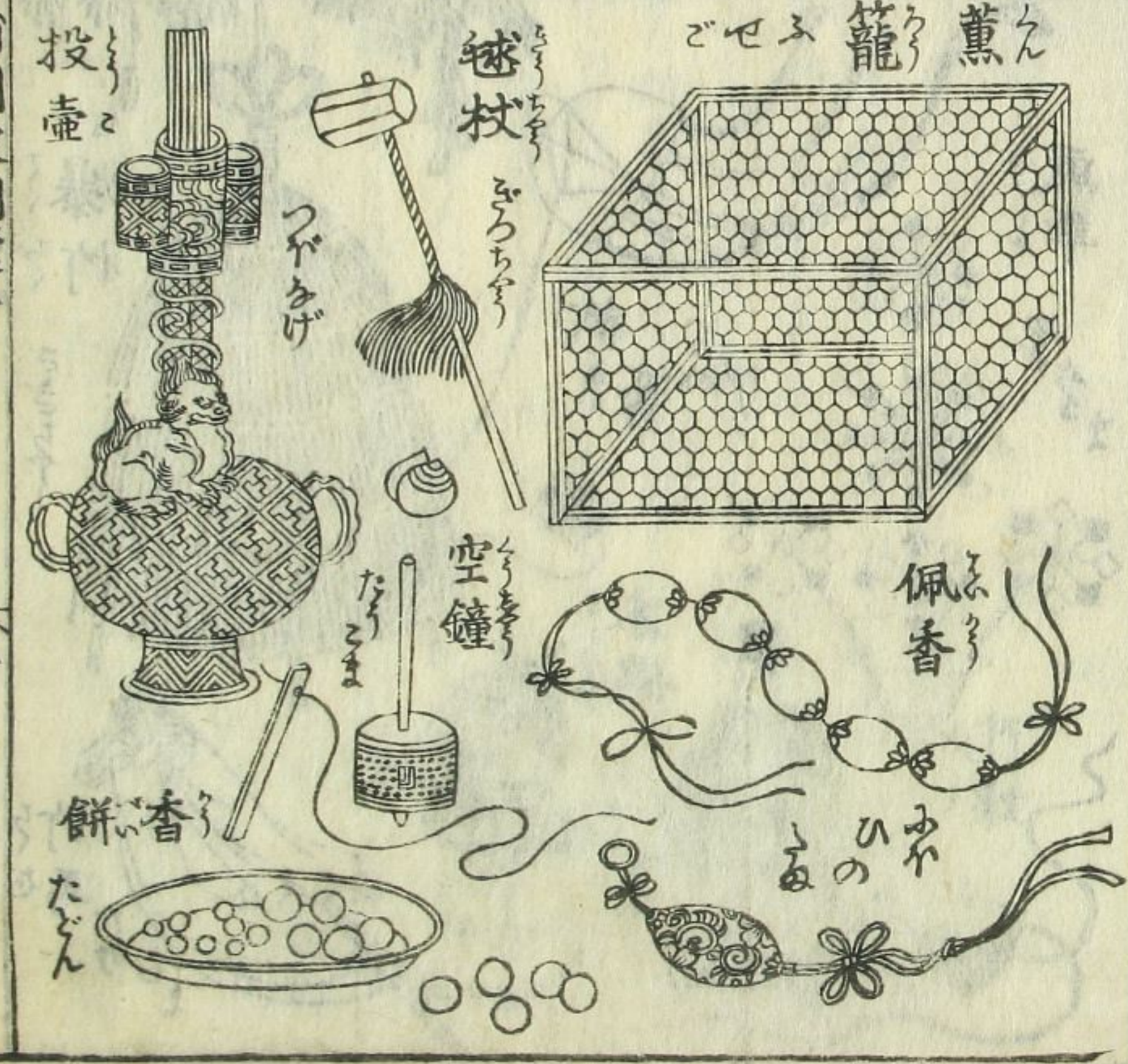
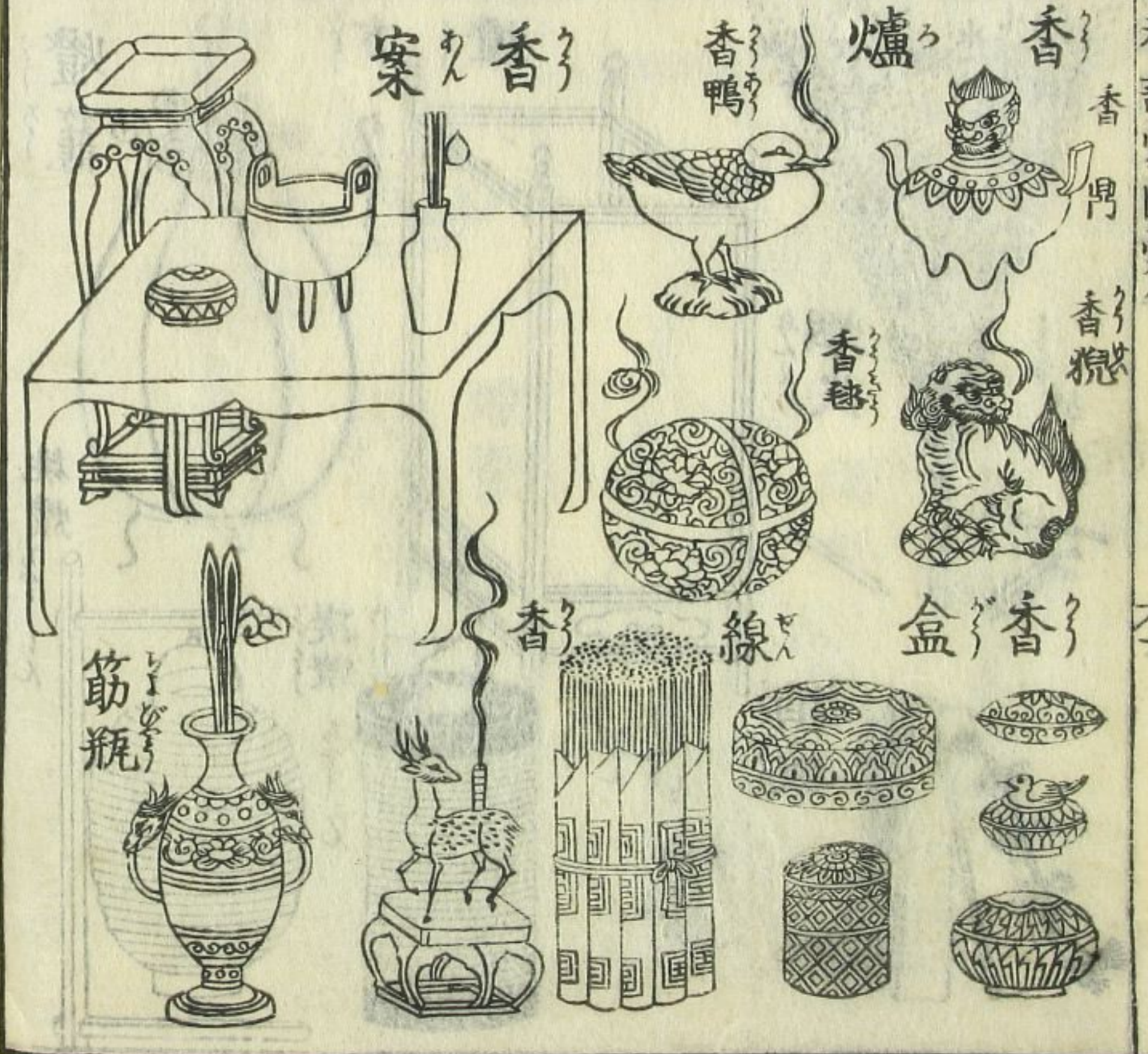
○燭臺の蠟燭をさり

燭架ともいふ

ろうり

○燭奴のろうそくを人に

形わらふ



見世の御用物川大の御用物

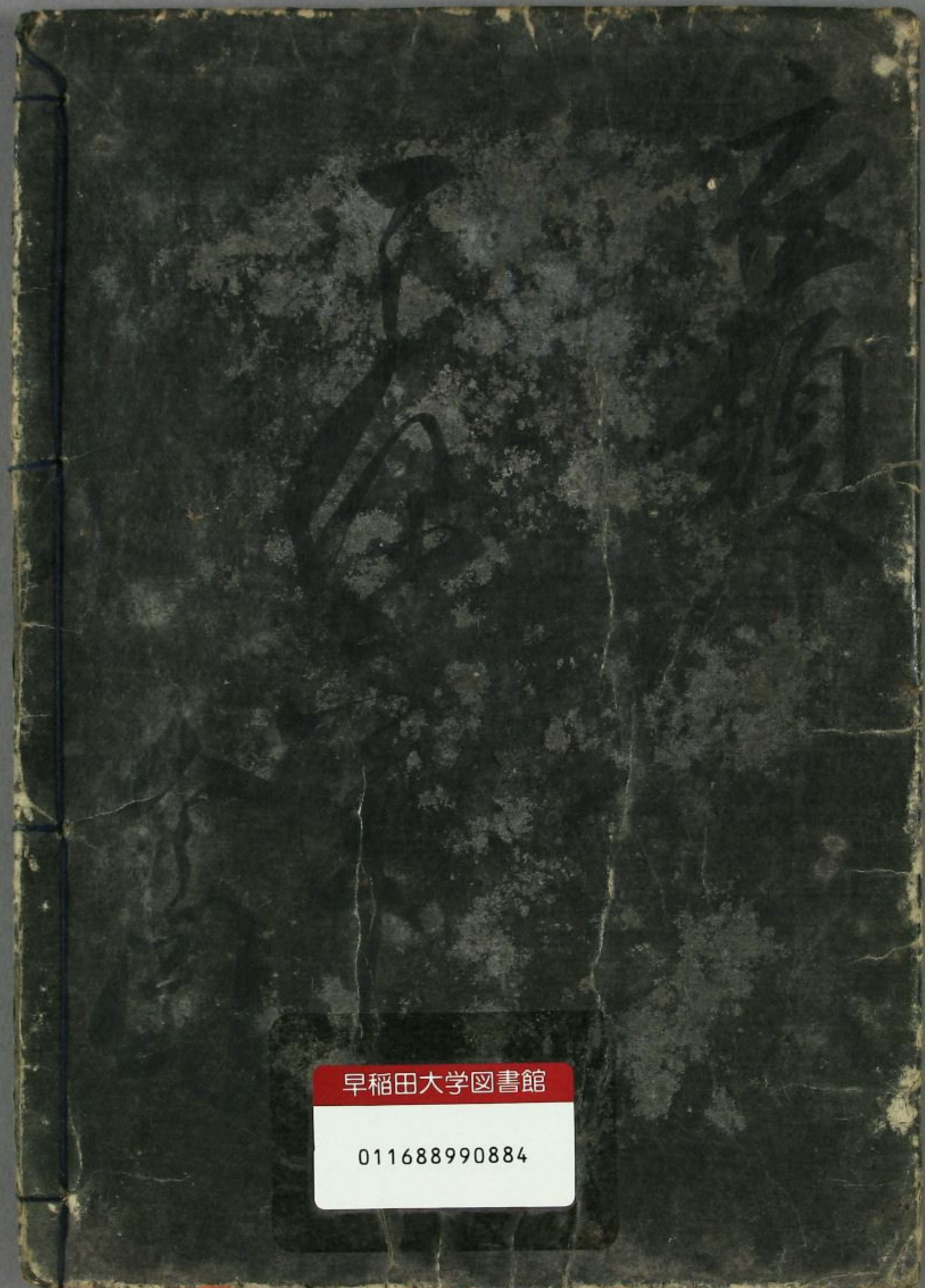
○燈の灯同一燈蓋のあ
らつさ燈心の燈柱ともいふ
燈花いちやうとていふ
○燈架の長檠あり短檠
ありの燈臺といふありま
燈架といふ
○燭前かんのあつさ
○油瓶のあつさ
かり又油注といふ
○燈籠の燭籠とも燈籠
ともいふ又灯篋ともいふ
○挑燈の丸と俗に酸漿挑
燈といふ紗のく張るる瓜
紗籠ともいふ
○方燈の今より行燈の西
方あるも方燈といふ紗を



とて瓜紗籠といふ○提燈の今より挑燈あり懸火ともいふ○烟火のあつさびかり花炮
ともいふ地崩花兒流星走線かしの名あり○柏板の今よりびんざらあり又柏子と
もいふ○香爐の薫爐ともいふ又香昇香瓶香鴨かしの名ありのくちらにうつく若
のくちらあり香迷の俗にまじり香炉○香迷はてまじりくちらありまじり香炉
鴨のくちらうつくくちらあり香鴨といふ○香盒の香をとり漆盒磁盒かび金銀銅
錫ホくはく○香案の今より卓あり又の香几といふ○線香の線いといふといふ
いといふのくちらあり香のくちらあり炷香ともいふあり南京よりくる○竹籠のいとい
いといふのくちらあり火筋のくちらあり火筋のくちらありといふのありと○薫籠の今
よりいといふのくちらあり又火籠とも夜篝ともいふ○佩香の今よりいといふのあり腰
にあつさのくちらあり香囊のいといふのくちらあり○繻杖の虫尤のくちらありといふのあり
あり玉繻杖ともいふ○空鐘の今よりいといふのあり獨樂ともいふ小唄のありといふのあり
かりの香餅の今より炭團あり又炭餅ともいふ火のくちらあり又炭撃とも炭麟
ともいふ○投壺の今よりいといふの射法あり壺に矢とあげのくちらあり○爆竹
の今よりいといふのあり○の今よりいといふのあり
爆竹ともいふのあり又天竺より中國人佛經よりいといふのあり○の今よりいといふのあり
右にいといふのあり○の今よりいといふのあり

○作馬つくまのまゝんがのたじきありのりあれたまのなと作馬つくまのなとあり
 ○紙し寫しのりあり紙時しじ風書ふうしょもり入いれるあは風筆ふうひつのり○本偶ほんぐの本ほん
 てつくりたる人形にんぎょうとて主しゅをほくくたる人ひと偶人ぐじんのり紙しをつくりたる紙偶人しぐじん
 ○風草ふうそうのりまかや○花はな標ひょうのりよまきうとあまのあまの小冊せうさくのりてあまのり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



早稲田大学図書館

011688990884